一般社団法人日本粘土学会 2023 年度第 4 回理事会議事録

日　時：令和 5 年 8 月 19 日（土）15:00～16:10
会　場：(株) 国際文献社アカデミーセンター4 階会議室および WEB 会議室
出席者：理事（23 名）川俣　純、日比野俊行、鈴木正哉、蛯名武雄、會澤純雄、井出裕介、伊藤健一、梅村泰史、大川政志、岡田友彦、黒田義之、桑原義博、敷中一洋、地下まゆみ、鈴木康孝、田村堅志、藤井和子、牧野和之、皆瀬　慎、宮脇律郎、毛利恵美子、森下智貴、渡邊雄二郎
監事(2 名)：志々目正高、高木哲一
理事以外の常務委員（8 名）：小口千明、亀島欣一、佐久間博、笹井　亮、手束聡子、中戸晃之、森本和也、鈴木憲子
事務局：川島朝子
成立確認：理事総数 29 名の半数 15 名、出席理事 23 名で理事会の開催は成立

審議事項
審議事項
１．2023 年度事業報告（資料１）
前回常務委員会からの変更点について、各担当委員より資料をもとに報告があった。
1. (2) 資料の最終行「2022 年の論文受付・・」を「2023 年の論文受付・・」に訂正した。
4.　前回より２件増えた。
9. (2) 前回より２件増えた。(3) 提示された（別資料）会費未納者に関係者がいたら声かけをして欲しいとのお願いがあった。
10.　「7 月 25 日」を「7 月 15 日」に訂正した。
上記以外は、変更なしとの報告があった。
２．2023 年度収支決算報告及び監査報告（資料２）
伊藤会計委員より資料をもとに説明があった。前回からは参考粘土試料の収入や経費の支出があったが大きな変更はない、また今年度全体では昨年度と同等の収支で落ち着いたとの報告があった。
高木監事より監査報告があり、監査結果に特に問題はないが、会員数が減少していることへの対策が必要であるとの意見が述べられた。
３．2024 年度事業計画（資料３）
前回常務委員会からの変更点について、各担当委員より資料をもとに報告があった。
2. (1) 蛯名実行委員長より順調に準備が進んでいるとの報告があった。　(2) 中戸実行委員長より、9 月 1 週目を予定し毛利先生と計画を進めているとの報告があった。
5. 佐久間委員より、資料訂正の依頼があり、2024 年 8 月の行を削除した。
10.　蛯名常務委員長より、前回の理事会での意見を反映させた予定であることが報告された。
上記以外は前回より変更点がなく、例年通りに進める予定であることが報告された。
４．2024 年度収支予算（資料４）
伊藤会計委員より資料をもとに説明があった（前回からの変更点は赤字で示された)。賛助

会員が 3 社退会による減収、また Clay Science の購読増による増収が予算書に反映された。さらに、雑誌配布の分析結果から、発行を減数した予算案とした旨が報告された。来年度は CMS-Asian Clay があるので国際交流費支出を増やしたとの説明があった。これは預託金であり将来的には回収できるので、現時点では赤字であるが、調整せずに予算案とした。

５．2023 年度総会の日時、場所、議案及びその内容（資料５）

蛯名常務委員長より総会で諮第５号議案について資料をもとに変更内容の説明があった。また、伊藤会計委員より、年度の解説がなされたが、表に間違いがあるので訂正の上、総会に諮ることとした。

６．理事の削減について（資料６）

蛯名常務委員長より資料をもとに説明があった。会員数が減少しているという現状に合わせて理事を 20 名とすること、また分野によって会員数が異なるので分野ごとに理事をおくことは現実的ではないので、廃止することが説明された。また 3 期連続で理事になれないという条項を削除し、合わせて役員候補者推薦委員会第６条３を改定することが説明された。

本件は理事会決定事項であり、本理事会で承認後、総会では報告事項として蛯名常務委員長が説明をすることとした。

７． 2023 年度総会の準備、進行等（資料７）

蛯名常務委員長より、資料をもとに説明があった。例年通りの進行となるが、今回は事務局が現地に来ないので、出席者の確認は手束庶務委員、地下庶務委員で行うこととした。

８．2023 年度表彰式の進行（資料８）

蛯名常務委員長より例年通りに行うとの説明があった。

９．第 66 回粘土科学討論会について（資料９、１０）

蛯名実行委員長より資料をもとに説明があった。関係者にはこれから連絡をするが今回の粘土科学討論会は本格的なリモート会議であるため、発表者には Zoom を利用する。また、リモート参加者はチャットで質問するので、座長は留意してほしいとのことであった。

リモートの準備など LOC の負担が大きい。またフルリモートで参加する人も少ないので、次回以降はハイブリッド会議の存続について検討が必要であるとの見解が示された。

１０．今後の国際会議の日本開催について（資料１１）

川俣会長から NCG-AIPEA officers meeting の報告があった。EUROCLAY は今回、ICC は 2025 年の 18-ICC（ダブリン）が最後となり、「CLAY」という国際会議に統一され第 1 回 CLAY 2027 がスペインのマドリッドで開催がほぼ決定している。その後２年毎に CLAY は開催され、ヨーロッパ及び地中海沿岸（ECGA zone）とそれ以外の地域（アジア-パシフィック、アメリカ、アフリカなど）で交互に開催する。2029 年から 4 年毎に ECGA zone 外での開催となるが、日本での開催を求める声が多かった。日本では 2028 年に Asian Clay を開催する予定であり、CLAY 2029 をホストするのは現実的に無理があるので、CLAY 2033 に立候補を考えている。また、2028 年の Asian Clay は佐藤努先生を実行委員長に考えているとのことであった。

１１． その他

森本委員から監査報告書１行目の 2022 年度は 2023 年度の間違いではないかという指摘

があり、訂正後監事が記名押印することとした。
以上、審議の上承認された。

報告事項
１．研究グループの活動報告（資料１２）
蛯名常務委員長より、資料をもとに報告があった。

以上の決議を明確にするため、この議事録を作成し、代表理事及び監事がこれに記名押印する。

令和 5 年 8 月 22 日

一般社団法人日本粘土学会 理事会

代表理事（会　長）　川俣　　純　　㊞

代表理事（副会長）　日比野俊行　　㊞

監 事　　志々目正高　　㊞

監 事　　高木　哲一　　㊞